



持続発展可能な社会を目指して

このたび当社の環境報告書としては第5回目となる2004年度版を発行することになりましたが、今回より当社の社会的な活動報告を加えて、タイトルを「環境・社会報告書」と致しました。

昨今、CSR(Corporate Social Responsibility)という概念が欧米企業を中心に広まっており、日本でもこの考え方が最近とみに注目を集めております。従来から企業には利潤を追求するという本来の側面と、社会における「企業市民」であるという側面の二面性があると言われておりますが、企業としてその両面について社会に対して説明をする責任を求められてきております。当社としましても、従来より環境保全活動のみならず、一企業として社会に対して果たすべき種々の責任については前向きな取り組みを行っており、このたびその概要を開示させていただくことに致しました。

さて、地球環境問題は年々多様性と重大性を増しておりますが、環境汚染や森林破壊、地球温暖化、世界で頻発する気象異変などは、企業活動をはじめ、人類の活動そのものの影響が地球という生命体の許容限度を越えることによって引き起こされていると言われております。人類の繁栄とその持続的な発展は我々の共通目標であります。地球環境の破壊がそれを脅かす存在になりつつあり、特に環境負荷の大きい企業がまずその社会的責任を強く感じ、持続発展可能な社会を目指して、その活動や製品が地球に与える負荷を最小化する最大限の努力を継続していく必要があります。

当社はそのような背景のもと、一昨年5月に公表したFDR-1(フジ・ダイナミック・レポリューション)という新中期経営計画のなかで、“地球に優しいインテリジェンスカンパニー”を目指すという一つの経営目標を掲げました。“クリーンな商品を、クリーンな工場から、クリーンな物流により、クリーンな販売店を通して、お客様にお届けする”という考えの下に、環境ニューボランティアプラン「富士重工 環境保全取り組み計画(2002年度～2006年度)」を策定して積極的に環境活動に取り組んでおります。今年はその活動の3年目にあたり、昨年まではほぼ計画に沿って目標を達成できたと考えておりますが、今後はさらに加速した取り組みが必要であると考えております。

当社は自動車を中心とした輸送機器メーカーであり、自動車や汎用エンジンの燃費や排出ガス低減はもとより、軽量化技術などを通じての環境性能の改善は、安全性能の向上や品質改善、原価低減などの諸活動と並んで当社の主要な経営目標になっております。また一方、当社は風力発電システムやビルゴミ処理システムなどの環境事業も展開しており、50年の歴史の中で培った高い技術力を生かした独自の環境関連の製品も皆様に提供していきながら、企業の存在基盤を確立し、社会の要請に応じた循環型社会の構築にも寄与したいと考えております。

今後もより高い質・量の内容の報告書へと改善を続けて行きたいと考えておりますので、是非本報告書をご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

代表取締役社長

竹中 恭二



環境問題と事業活動の 密接なつながりを認識して

環境問題と事業活動について

現在の地球環境問題、すなわち、エネルギー消費などにより生じる地球温暖化問題、大量生産・大量消費・大量廃棄社会の生み出す廃棄物とそのリサイクルの問題、そして化学物質問題などは、私たちの事業活動と直接的・間接的に少なからず結びついていると認識しております。また、生産活動を継続していく上で、事業所近隣の地域社会の皆さんと共存を図っていくことが大切であると考えております。

2003年度の活動を振り返って

環境マネジメントの部分では、本社や自動車のパワーユニットの開発拠点である東京事業所でISO14001の認証を新たに取得しました。一方で、北米にある関係会社5社(SIA、SOA、SCI、SRD、RMI)*1が参加する北米環境委員会を開催し、また、スバル販売特約店においてもチームとして環境の取り組みを始めるなど、グループとしての活動はさらに進みました。

商品面では、昨年5月に新型「スバル レガシィ」を、12月に新型軽自動車「スバル R2」を市場投入しましたが、双方とも、ボディ構造の刷新や新技術の採用などにより徹底した軽量化を図り、エンジン性能向上などと相俟って環境性能も大きく向上しました。

生産段階では、省エネルギー活動やコージェネレーションシステムの導入効果などによりCO₂排出量が1990年と比べて13.7%削減でき、廃棄物削減活動なども順調に進むなど、ほぼ計画どおりに推移しました。

2004年度の取り組みについて

当社では、地球環境保全に関する中期的な計画である「環境保全取り組み計画(2002年度～2006年度)」を策定公表

し実行しておりますが、中間年である2004年度は最終目標達成のための重要な年となり、計画を整斉と進めてまいります。

また、2005年1月からはいよいよ自動車リサイクル法が施行されます。グループとして、メーカーとして準備を怠らないようにしてまいりたいと思います。

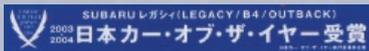
昨年度、総合環境委員会委員長として、各専門委員会や各カンパニーの活動状況について、現地へ赴き直接ヒアリングを行いました。まだまだ改善の余地がある部分もありました。私たちは、環境問題と事業活動には密接なつながりがあることを改めて認識し、商品を開発し、工場で生産し、商品を輸送し、販売店を通してお客様に買っていただく、そして使用済みとなったものはリサイクルされるといった諸過程の中で、私たちの関与するすべての段階をクリーンにしていく努力を続けていかなければなりません。

持続的発展のために企業の社会的責任への積極的な取り組みが要求されつつある中で、今回、「環境・社会報告書」として社会性の報告部分を初めて記載させていただきました。今後、さらに改善をしてまいる所存ですので、ご高覧をいただきまして、ご意見、ご感想を賜れば幸いです。

*1 SIA、SOA、SCI、SRD、RMI：海外の関係会社の項(48ページ)を参照下さい。

環境担当役員
取締役兼専務執行役員

荒澤 純一



スバル レガシィ

「日本カー・オブ・ザ・イヤー 2003-2004」に選ばれる

「日本カー・オブ・ザ・イヤー 2003-2004」に、スバル レガシィが選ばれました。受賞理由に「スバルという個性を重視したメーカーに相応しい水平対向エンジン、独創的な4輪駆動技術を守りつつ、これを新しい時代の要求に応じて改善を続けた結晶といえる車。日本車として、世界に誇れるユニークな内容を持つだけでなく、中型セダンとして高い総合バランスを持つ」点を挙げ、高い走行性能と燃費向上などの環境性能を高次元でバランス良く実現させた技術が高く評価されました。

The New Category on the Earth.

